

平成30年度幸田町行財政改善調査会の開催結果について

- 1 開催日時 平成31年2月7日（木）午後2時から3時40分まで
- 2 開催場所 役場3階 庁議室
- 3 内 容

【会長挨拶】

地方公共団体を取り巻く状況は近年、大きく変化。そのような中でも住民サービスの向上などを図っていくことが必要。本日の進捗状況報告について、委員の皆様から貴重な意見を伺うことで、さらに安全・安心なまちにつながることを思っている。

【町長挨拶】

今年度からスタートした第12次行政改革について、改めていろいろと意見をお聞きしたい。町として今は当初予算編成の時期で、おそらく一般会計約165億円の過去最大予算となる見込み。地域の要望はもちろん、財政の安定のため、歳入出をしっかりと管理する必要がある。災害や豚コレラの問題など、予期しない危機管理も求められている中で、予算や事務の改善についても、未来につながるという視点を持ち、進めてまいりたい。

【議事】

資料の要点（資料の見方、数値目標等修正部分、達成、未達成）について、事務局から一通り説明（合計10分）

【主な質疑】

- （委員） 計画番号13「出納事務の改善」について。振込手続きはペーパー？ディスク？それをどう変えるのかという部分を知りたい。
- <事務局> フロッピーなどで振込データを渡していたものを、インターネットを使ってデータ処理することで、事前にエラーチェックなどができる。
- （委員） H30年度目標が100件で達成とのことだが、H29の件数は。
- <事務局> 約140件。口座登録をいただいているから、金融機関の再編によるもの、近年、口座振込のなかった人に対する修正というケースが多いとのこと。
- （委員） フロッピーであれ、インターネットであれ、入力作業は人間。ペーパーからインターネットという部分を変えただけで事務の改善になるものなのか。
- <事務局> 再振込について、口座番号が違っていた場合には、再度、紙でのやりとりすることもあった。そのあたりの手間も含めて改善・省力化と認識している。
- （委員） どのプランも、通常業務をしっかりと遂行すれば達成できるものと思う。頑張っていたきたい。ただ、通常業務以外のものも見受けられ、例えば、防災。いざという事態のシミュレーションは多岐にわたり、誰が何をすればいいのかなど、できる限りの準備をお願いしたい。

- <事務局> BCP（業務継続計画）というものに対し、全庁で動いている。毎年内容を更新し、訓練、準備、対応について考えている。
- （委員） 計画番号 5 の「障害者相談事業の充実」について。未達成との報告があり、今後 人員の確保に向けて、とか、関係機関との連携を、とのことだが、具体的に何をしていくのか。また、計画番号 33 の「タウンプロモーションの推進」について、先ほどの委員の意見にも合致するが、職員有志によるということで、通常業務ではないと感じる。働き方改革と言われている中、どのように実施をしているのか。
- <事務局> もともと、専任 2 人で対応していた部分を地域包括支援センターに一本化した。今年度は兼任としての対応となり、件数が伸び悩んでおり、担当課としてもまずは専任となる人手を確保したいとのこと。また、関係機関に協力をいただき、フォローしてもらえようがないかを考えているとのこと。
- タウンプロモーションについては、若手職員 12 人ほどでまちの PR 手法等を考えて動いており、主には SNS を使った情報発信に取り組んでいる。業務がどうしても忙しければ、通常業務優先で、打合せ等も勤務時間内で出席可能な時間帯で日程調整をし、所属の部課長の理解を得ながら進めている。
- （委員） 計画番号 2 「女性消防職員の確保」について。本来としては消防機能のアップが重要と思うが、本内容はそのあたりとどう関係があるのか。
- <事務局> 多様の視点で、という旨の記載があり、来客においても、現場での対応においても今後は、女性による対応が大いに考えられます。本件については、事務職となっていますが、引き続き、公務員ガイダンスも含めて、女性消防士の採用に向けて働きかけ、実際に応募があれば、そのような面も強化されていくと考えられる。
- （委員） 災害時などで、昼間は大半の男性が町外に働きに出ている。そのような時でも、地域の女性が連携できている、これが女性消防士に限らず、万が一の時の良い組織になり得る。幅広い意味でできると良い。
- （委員） 消防団もなかなか集まらない状況。若い人も日中は町外に出ていることも多く、これでは機能しない。常に近くにいる人、役場職員などを中心にチームを組むというのはどうか。人員確保が大変なのは承知しているが、訓練や特殊な技能が必要な分野であるため、無理矢理サラリーマンで人数を合わせるのは酷だと思う。また、時間外・特殊勤務の手当を整備することも必要。意気込みがある人はどんどんやってほしいが、こちらから数字目標をあげて、頑張るって集めるものではないと感じる。
- （会長） 女性ならではの視点で新たに気付けることがある、ここに町は着目し、まずはやってみるといふことなのだと思う。事務局も参考にさせていただ

ければ良い。

(委員) 今は各地域に女性消防クラブ員がいる。役員に選ばれて集まっているが、その人たちが地域でどう活動するのかという部分が分かりにくい。先日、避難勧告があったが、何をしたらいいか分からず、避難所に行ってみたら職員がいて対応していた。マニュアル等があり、やるべきことがしっかりと地域に降りて来ていればもっとできることがあると感じる。

<事務局> いろいろと御意見及び御協力をいただき感謝。女性消防クラブ員の皆様には、地域での防災訓練でも御活躍をいただいている。それぞれの区で役割は違うかもしれないが、防災意識の向上に大いに貢献いただき、頼もしい存在である。

(委員) 地域の防災訓練も、言われたから集まっている感は否めない。

(委員) 防災ではないかもしれないが AED について。突然友人が倒れたことがあったが、自分は全く動くことができず、友人を助けることができなかった。そもそも医者への許可がないと使ってはいけないのでは。

(委員) AED は機械が心電図を解析し、電気ショックを流すのかどうかを判断してくれるもの。問題なのは、怖くて動けない、できないという人に、行動できるように意識づけをしていくこと。機械が常備されていても、使われないということが問題。

(委員) そういうときに活躍できる人がいることは良い。医者も良いが、看護師さんがいると良い。そういった分野の経験者が多くいるような組織があると良い。

<事務局> いざという時にどう動くのか。地域の防災訓練でもシミュレーションをしたり、機器の使い方を説明したりしている。日頃から考え、情報交換をしていくことが重要と考えている。町民と一緒に考え、地域にあったマニュアルができるとう良い。

(委員) AED は、各公民館に配置してあるのか。

<事務局> 学校などにはあるが、地域にまんべんなくではない。来年度から町内のコンビニエンスストアに設置する予定。リースであり、メンテナンスも業者にさせていただけるようにする。コンビニは「置き場」を提供していただく。数を増やすこと、どこにあるかという部分をしっかりと示していきたい。

<町長> AED が学校にあるとはいえ、学校のどこにあるのか、皆分からない。「どこにあるのかを誰もが知っている」ことが大切なのであって、「コンビニに行けば、ある」という風にしていきたい。そして、公民館などでは、鍵が開いていないケースも考えられるので、いつも開いている場所に、ということ。

(会長) 計画番号 14 番「情報セキュリティ対策」ということで、中身は e ラーニングや研修とのことだが、私の勤め先では、研修と共に、実際にダメメール

が送られてくる。題名も「学長より」だとか、上司のような文言があり、思わず開いてしまうこともあった。このように、活字・座学だけではなく、実際に体験しながら、感覚的に体で覚えて対策をしていくといった内容があると、もっと効果的だと感じる。

- <事務局> 良い事例をお聞かせいただき、感謝。参考にしていきたい。
- (委員) 昨年話題だが、水道の有収率について。過去の数字を調べたところ、平成20年度が94.2%という最高数字となっており、直近が91.3%となっている。平成30年度はこれよりも下がることはないと思うがどうか。また、計画番号16「借地の解消」について、数値目標が設定できない理由が、相手方との交渉によるとのことだが、それは当然のことであって、交渉がまとまらず10年かかった、というのは目標達成とは言えない。何件の借地を何件にする、という目標であれば分かる。また、今回の実績が5,032㎡解消したとあるが、年間賃貸料がいくらで、購入価格がいくらだったのかということをお聞きしたい。そもそもコストという観点での取り組みとして合っているのか。賃料を値下げするなら分かりやすい。借りるよりも買う方が良いのかどうか。自身の認識としては、借りて、いつでも返せる方が良いと感じる。
- <事務局> 有収率は、下がらないというものではない。原因は、老朽化による漏水。本管の耐震化などは進めているが、枝管なども老朽化してきている。有収率を上げていけるように引き続き、やっていかななくてはいけないということ。町の考え方としては、今までの経過からして、借地料をこれからずっと支払っていくというよりは、購入することで解消していく方針だということ。今回の借地解消も相応の金額を支払ってはいるが、毎年支払いというずっと続くというサイクルを解消していきたい。
- (委員) 一般企業だと、今はなるべくレンタル、すぐに返せるという考え方が多い。
- <事務局> 借地の解消には、購入する以外に、お返しするというパターンもある。5,032㎡については、5か所に渡るので、詳細データをお示しできない。ただし、購入すれば、これから毎年支払っていく予定だった賃料の解消になるということ。もともと、いずれは町として購入しなくてはいけない、という方向は変わっていない。
- (委員) 計画番号27「プライマリーバランスの均衡保持」、計画が48億円以下で、実績が44.1億円と大きく減らすことができている。これはなぜか。予定外の何かがあってこのような数字となっているのか。
- <事務局> 返済計画は決まっているため、新たな起債をどれだけ起こさなかったか、なるべく借入れをせずにできているということ。また、町の運営として、資金が足りないからその都度、起債できるわけではなく、起債というものは、

目的があつて初めてできるもの。

(会長) 起債は少ないほうが良いに決まっているという中で、起債が少なくて済んだということだろう。

(委員) 繰り上げ返済などでペナルティを受けたりすることがあるのでは。起債ではなく、単純な借り入れ等で対処していく方が良いと感じるが。

<町長> 繰り上げ返済というものはできない。今年は歳出が多い、でも歳入はこれだけしかない、ということがもしあつても、そのような事態に市町村はいわゆる普通の借入をすることができない。目的・理由があるものについては起債で、ということ。これは、法律上できない、としか言いようがない。本来は、住民税、固定資産税でやりくりをして、法人税は貯蓄しておこう、というのが理想。幸田町は、今までに町民会館、単独の消防署、幸田中央公園などを作らせていただいたが、同時に莫大な起債を背負った。それを頑張って返していけるようになってきた。今後、起債を続けていると、いつまでも自立できない。

<財政課長> プライマリーバランスの計画と実績の数字について、計画的に借りたものを返している中で、新たに借りることをなるべくしないように進めてきた、ということ。ふるさと寄付金をいただけていることも、要因の一つではある。

<町長> 消防団やAEDへの意見もあつたが、まず「AEDはコンビニにある」ということを誰もが分かるようにしたいと思っている。今後、大きな地震は必ず起きる。平常時は庁舎に職員がいるが、真夜中は職員が平常時と同じように対応することはどう考えても難しい。そんな時は地域のコミュニティが不可欠となる。また、私が思い描くのは、例えば消防士、看護師などのOB、OGなどいろいろなことを経験して培ってきた方が、消防署の近くで「消防テラス」として24時間体制で安全・安心について考え、相談できたり、学べたり、応援してくれる体制づくり。また、中学生は助けてもらう立場ではなく、助ける側の人材になり得る。さらに皆が助け合えるしくみを考えるなど、平時の対応をしっかりと考えていかななくてはいけない。

(委員) 小学生、中学生でも活躍できることはあると思う。地域から協力してもらう代わりに、学校側も協力的であることが必要。ただし、中学生は部活動などが大変ではある。これからについて今一度考え、自分たちでもできることについてもっと連携をしなくてはいけないと感じる。

<事務局> いろいろなご意見をいただき感謝。

【副町長挨拶】

今年度から始まった第12次行政改革について、多くの貴重な意見をお聞きできた。事務局から明確な答えができていない部分もあり、申し訳なく感じた部分もあるが、第1次から

時代に応じて変化し続ける行革について、町としても「未来につなげる」ということを意識し、皆様からいただいた意見を基に、これからも引き続き推進してまいりたい。